

吹田市環境白書 2025

WHITE PAPER
ON THE ENVIRONMENT
IN SUITA 2025

はじめに

世界気象機関（WMO）は、2025年3月、「世界気候の現状2024」の確定版を発表し、2024年は、世界の平均地表面温度が産業革命前の基準値から、気温上昇を抑える目標である1.5度を初めて超え、1.55度上昇し、昨年に引き続き観測史上最も温暖な年となったと伝えました。我が国においても熱中症による救急搬送者は年々増加し、今後も「顕著な高温」の頻度・強度がますます高まっていくことが予想され、熱中症のリスクが高まっています。

2024年度に環境省と国立環境研究所が取りまとめた2022年度の我が国の温室効果ガスの排出・吸収量は、約10億8,500万トン（二酸化炭素（CO₂）換算）で、2021年度比で2.3%（約2,510万トン）の減少、基準年度である2013年度比で22.9%（約3億2,210万トン）の減少となりました。排出量そのものは、約11億3,500万トンで、2021年度比で2.5%の減少、2013年度比で19.3%の減少となりました。

排出量減少の主な要因は、産業部門、家庭部門における節電や省エネ努力等の効果が大きく、エネルギー消費量が減少したことが考えられます。

国連気候変動枠組条約第29回締約国会議（COP29）が2024年11月に開催され、気候資金に関する新規合同数値目標（途上国向けの気候行動のための資金目標（NCQG））の決定、パリ協定第6条、国際的に協力して温室効果ガスの削減・除去対策を実施する規定に関する詳細運用ルール決定の他、緩和、適応等の各議題についての決定がそれぞれ採択されました。気候資金に関する新規合同数値目標では、先進国が率先する形で、2035年までに少なくとも年間3,000億ドルの途上国支援目標について決定され、また、全アクターに対し、全ての公的及び民間の資金源からの途上国向けの気候行動に対する資金を2035年までに年間1.3兆ドル以上に拡大するため、共に行動することを求める旨が決定されました。

このような中、政府の環境政策の大綱を定める環境基本計画として第一次計画からちょうど30年の節目である2024年5月、第六次環境基本計画が閣議決定されました。第六次環境基本計画では、環境保全を通じた現在および将来の国民一人一人の「ウェルビーイング／高い生活の質」を最上位の目的に掲げ、環境の質を上げることによって経済社会が成長・発展できる「循環共生型社会」の構築を目指すこととしています。

本書は、本市が実施している環境施策の進捗状況と環境の状況についての報告書です。本書を取りまとめることで、環境基本計画に掲げた目標の達成度合いを確認し、施策の見直しや充実を図ります。あわせて、身近な環境に関心をもち、自らのライフスタイルを環境の視点から見直すきっかけとなれば幸いです。

目 次

第1章 吹田市の環境政策	1
第2章 目標の達成に向けた重点戦略	3
第3章 目標達成への施策の展開	
第1節 エネルギー	7
再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	
第2節 資源循環	15
資源を大切にする社会システムの形成	
第3節 生活環境	21
健康で快適なくらしを支える環境の保全	
第4節 みどり・自然共生	29
自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成	
第5節 都市環境	33
快適な都市環境の創造	
第4章 環境基本計画に基づく進行管理	39

—環境白書の編集について

この環境白書は、吹田市環境基本条例に基づいて毎年発行しているものです。2025年版(令和7年版)は、データや集計については、2024年度(令和6年度)における実績をとりまとめました。それ以外の記述は、2025年(令和7年)10月初旬時点での実績です。本書は、現在課題となっていることにスポットをあて、まとめています。詳細なデータは資料編にまとめ、吹田市ホームページに掲載しています。本書とあわせてご活用ください。